

検討課題に対する第1専門委員会委員の検討状況・方向性

資料4

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

平成18年12月11日

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>1学年当たりの適正な学級数</p> <p>(ア)市部、町村部の高校のそれぞれの望ましい学級数</p> <p>(イ)普通高校、職業高校、総合学科の高校のそれぞれの望ましい学級数</p> <p>普通科と職業学科と総合学科の在り方</p> <p>(ア)普通科、職業学科、総合学科の目指す役割</p>	<p>教育の機会均等という事と共に、青森県の高次教育の水準・環境の維持・向上という視点が必要。そのためには教員配置を重要な条件として考えなければならないと考える。</p> <p>そのためには、市部・郡部共に学校配置を見直しながら、現実の生徒の入学状況や地域性を考慮することで、市部と町村部の基準を分けて考えることとし、以下のような学校規模が望ましいと考える。</p> <p>【市部について】</p> <p>普通科(進学校)...6～7学級 普通科...4～6学級 総合学科...4学級以上 職業学科...4～8学級</p> <p>【町村部について】</p> <p>普通科...3～4学級 最低限2学級 総合学科...4学級以上 職業学科...4学級以上 分校...どうしてもやむを得ない所のみ特色を持たせて存続させる。</p> <p>普通科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの保護者及び生徒はまず普通高校へ進学したいと考える現状、及び全国の割合との乖離を考えると、普通科を増やしても良いのではないか。 ・単純に数合わせで優先する事には疑問がある。 <p>職業学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県としての施策、地域の産業構造やニーズ、これまでの実績等を考えると、職業高校というだけで安易な統廃合はすべきではない。 ・現在の社会状況・ニーズに合わない学科や似たような学科については再編することで、より水準の高い技術力を持った生徒を育成する必要がある。 	<p>青森県高等学校長協会の意見</p> <p>専門高校、総合学科の高校の適正学級数については、各校、各地域によって条件が違い一律に規模を決めることは難しい状況にあると考える。</p> <p>工業高校については、機械系、建設系、電気系の基本3学科、1学科1学級を基本としたいとの意見が多数である。また、工業系高校へは志願者も多く、中学生のニーズに応えるような学級数にすべきとの意見もあった。</p> <p>【市部について】</p> <p>普通科...6～8学級(受験指導に対応可能な教員数) 総合学科...4～6学級(選択科目の確保) 専門高校...4～6学級(学科毎に最低1学級必要)</p> <p>【町村部について】</p> <p>普通科...4学級(2～3学級もやむを得ない) 総合学科...4学級 専門高校...4学級</p> <p>普通科</p> <p>普通教育に関する各教科・科目の学習を通して、各教科の基礎学力や広い教養を身に付けさせて上級学校への進学に対応できる。</p> <p>職業学科</p> <p>生徒の興味・関心・適性に応じた学科選択により、専門教育に関する各教科・科目の学習を通して、専門教育の基礎を培うとともに、資格取得や職場体験等により職業意識を形成し、産業社会の人材を育成する。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(イ)全県の視野での、普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合</p>	<p>総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育により望ましい職業観を与えるという部分と、進学指導の部分の両方を取り入れる事で進路に悩んでいる生徒に対応できるのであれば、理想的であり今後の一つの方向性となるのではないか。 ・現状としては、生徒の選択肢を広げるために付随する施設・整備や人員の配置は厳しい状況が見られる。 ・これまでの実績等を検証し、特徴と意義を鮮明にする必要がある。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科、職業学科、総合学科それぞれの校種の役割を明確にして行くと同時に、生徒の進学意識の啓蒙が必要ではないか。 <p>割合については自然に決まるものであり、学科等の見直しを進める中で自然と学級減を進めるのが理想的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかし、保護者・生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やす等、何らかの方向性を打ち出してもよいのではないか。 ・職業学科及び総合学科については各地区毎に設置するべきと考えるが、雇用状況等を学科・コースの編成に反映させる努力が必要である。 	<p>総合学科</p> <p>生徒の興味・関心・適性に応じて、幅広く教科科目を選択して学習し、自己の進路を見つけ出し、普通及び専門に関する基礎を培い、就職・進学に対応できる。</p> <p>本県の大学等進学率が上昇傾向にあり、また、中学生や保護者を対象とした調査結果では普通科の希望が高いことから、今後、普通科の割合を漸増する必要がある。</p> <p>地区毎の募集割合については、地区毎の特徴や状況等を十分踏まえ、地区毎の違いがあってもよい。</p> <p>また、生徒の通学範囲内に普通科、専門学科、総合学科を配置するという観点から学科を設置していくことが望ましい。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>適正な学校規模を実現するための方策</p> <p>(ア) 全県的視野での統廃合の必要性と可能性</p> <p>・ 統廃合以外の選択肢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な学校規模として、学年4学級～8学級を考えると、普通高校が青森・弘前・八戸の三市には複数校、その他の市には1校、町・村には通学の利便性を考えながら適宜配置することとし、統廃合はやむをえないと考える。 ・ 高校が地域文化の拠点として役割を担ってきた、今そこにあるから、との理由でなく、現状を踏まえた上で、県全体から統廃合を含めた適正配置が必要と思う。設立したときの環境も時間の経過とともに変化しているため、全ての高校について、過去の経過に縛られるのではなく、改めて見直しが必要と思う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 必然的に統廃合を実施しなければ、適正学級規模の議論との矛盾が発生する。 2 統廃合以外は、現状では校舎制しか考えられない。校舎制は後日議論することになっているが、交通が極端に不便なことや近隣に高校が存在しない地域があるとすれば議論する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な学校規模を確保するため統廃合はやむを得ない。中高一貫教育の導入も視野に入れて行く事も必要。学校は地域の核なので、統廃合等難題と予想されるが、十分な話し合いを持って理解してもらい進める必要がある。 ・ 高校において、ある一定の教育レベルを維持するためには、入学倍率が1.2倍程度になることが望ましい。倍率のないところに学力の向上は望めない。全国と互するだけの学力をつけるためには、全入学の考え方を脱皮することが必要である。一定の倍率を維持するための工夫が必要である。 ・ 市部における普通高校の統廃合は大胆に行うべきだと考えます。既存の普通高校を存続させるという前提では生徒数の減少に対応する方策が見出せないと考えます。町村部における統廃合についても相当な必要性があると考えますが、実施した場合の在学する生徒の学校生活が合理的かつ効率よく送ることができるような方策を施さなくてははいけないと考えます。例えば、登下校が精神的・肉体的・経済的に負担にならないようスクールバスなど活用できることや、部活動の際はそれぞれの種目や競技に応じて機能的で有意義に活動できる時間・場所・指導者を確保すること等が必要と思われます。 ・ 学校が地域社会に果たす役割、及び地域が学校に寄せる期待を理解しつつ、現状では思い切った統廃合もやむを得ない。 	<p>教育水準や教育環境の維持向上を図るためには、ある程度の学校規模が必要であり、そのためには、統廃合もやむをえない。</p> <p>ただし、一律に統廃合するのではなく、地域の特性や教育の機会均等の観点に立ち計画を立てることが肝要である。特に郡部の場合、通学手段の確保(通学バス等)等を考える必要がある。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(イ)統廃合の進め方 ・統廃合による新しいタイプの高校の可能性 ・統廃合基準を設定するのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度以降、10年間の中卒者の減少見込を考えると、効果的教育環境を整える上からも、統廃合の必要性は不可欠に思われる。 ・各市町村の中学校卒業生の動態、及び全県的な交通体系を考え合わせ、公正に判断していく。この判断の上に統廃合基準はあると考える。新しいタイプの高校は、将来を展望し、プランや効果を慎重に検討し判断すべきである。 ・新しいタイプの高校は、財政面で無理と考えている。校舎建築費のみならず設備に多額の金額が必要である(職業高校の新タイプについて) ・普通科は、市部の中核となる受験校は残し、新設の定員に満たない普通高校は統合する。職業科、総合学科とも定員に満たない類似性のある学科・コースは一緒にするか、廃止を含め再考も必要ですし、地域の方々と十分に話し合い納得してもらう。 ・中南地区にある尾上総合高校のような総合高校を他の地区に設置することも前向きに考えてはどうでしょう。 ・地域住民の理解を求めながら進めることは当然だが、統合の対象となる地域からの反発は容易に察せられる。理解を得るためには、一定の基準設定が必要。 ・農業高校は土地面積も必要だが、商業科は設備にあまりお金がかからないので、商業科を組み入れるのも可能と思われる。三本木農業高校も三沢商業が無い時は立派に機能していた実績もある。 ・統廃合の基準はあくまでもその地域の児童・生徒数に応じるべきではありますが、一つの地区の市部とその周辺の町村部の児童・生徒数の変位はきめ細かく分析する必要があると考えます。 ・職業学科については基本的に1学科1クラスを前提に考えていくべきだと思いますが、一つの地区で統合できる学科や再編によって複数学科をより少ない学科にできる場合は積極的に進めていくべきだと思います。 ・第2次実施計画にあるように統廃合への基準と道筋を、公開し地域社会の理解を得ていくことしかないと思います。 	<p>現在の財政状況等から考えると、新設の学校設置は困難であると予想される。また新しいタイプの高校を新設した場合には、様々な困難やリスクが予想されることから、慎重に検討すべきである。</p> <p>さらに、中学生段階で将来の進路設計ができていない生徒は多くないことから、学科の多様化に疑問を感じるなどの意見も見られた。</p> <p>以下の点が必要との意見もあった。</p> <p>単位制の導入や総合学科化を図ることをねらいとした再編統合</p> <p>特別支援教育を必要とする小規模校の設置</p> <p>ドロップアウトした生徒の受け皿的学校の設置</p> <p>統廃合の基準については、県民や地域住民の理解と納得を得るためにも何らかの設定が必要である。</p> <p>基準とすべき観点については、数年間の入学者選抜の志願倍率や募集定員に対する充足率、地元出身生徒の在籍率等を参考にすること、及び望ましい学級数の確保を基準とすること等である。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(ウ) 地区毎の学校配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統廃合の結果、可能性があると思われる「新しいタイプの学校」というのを探ってみる必要がある。 ・ 総合学科と工業、農業、商業科を統合した新しいタイプの学校があってもよいのではないかと。統廃合基準を設定する必要がある。 ・ (ア)の普通科の配置及び現在の配置の状況を考慮して、職業学校・総合学科の配置が考えられる。 ・ 現状の6地区を、生徒数・適正な学級規模と普通科・職業科・総合学科の割合を3つを基準として議論するしかないのではないのでしょうか。 ・ 全県的視野での統廃合を進める場合、地区バランスは当然考慮すべきであろうが、その場合、従来の「6ブロック」という考え方を踏襲すべきかどうかの再検討を。 ・ 教育の機会均等の確保の観点からも、地区の事情による柔軟な学校配置があつてよい。 ・ 各地区(特に都市部)において、高校の廃校を前提にした議論が必要と考えます。各校の校舎化や学級数減だけでは、長期的視野に立った場合の施策とはなりえないのではないのでしょうか。普通高校の理想的な学級数を6クラスと判断する立場から思い切った学校配置の見直しを行うべきだと考えます。 	<p>通学区域が全県一区となったといえども、出来ることなら親元から通学できる範囲に普通高校、専門高校があることが望ましい。</p> <p>また、地区毎の特殊性を考慮しながら普通科、職業科、総合学科の占める割合の見直しが必要である。</p>